医　療

医療現場の最新事情

地上14階建ての新病院が完成

熊本総合病院「地域活性化の起爆剤に」

▲総事業費 100 億円をかけ、現病院筋向いに新築した熊本総合病院（1 月 1 日付で八代総合病院から改称）の新病院

◀病院屋上に設置した県南地域唯一となるヘリポート

▶正面入り口から2階外来に向かう階段。ロビー周りは天井も高く、ホテルのような落ち着いた雰囲気となっている

健康保険熊本総合病院（八代市通町、島田信也病院長）は1月19日、新病院見学会と新築記念パーティーを開いた。

新病院は総事業費１００億円をかけ、現在地の筋向い、八代市役所東側に建設。内覧会を実施した後、記念パーティーを行った。

パーティーには、関係者ら約３００人が出席。冒頭で島田病院長が「県南地域の中核病院として高度医療・急性期医療の機能向上を図っていく。新病院が八代の新しいランドマークとして、美しい街づくりと地域活性化の起爆剤になってほしい。医療を通して、公に一肌脱ぐという精神でこれからもがんばっていきたい」とあいさつした。来賓祝辞の後、祝宴に移り、新病院の完成を祝った。

新病院は、敷地面積６５４４㎡、地上14階地下1階建てで、延べ床面積は約３万㎡。高さ65メートルの高層ビル。ヘリポートの新設、最新鋭の放射線治療機器の導入など医療機能向上を図っているほか、一流ホテルのような居住空間の提供を目指したつくりとなっている。

▲約 300 人が出席して開かれた新築記念パーティー

▲内覧会で施設内部を見学する出席者ら

“ドクターヘリ元年”、出動実績４００件に

「熊本型ヘリ救急搬送体制」が好連携

▲様々な医療機器を備えるドクターヘリの機内

▲熊本赤十字病院のヘリポートを離陸するドクターヘリ。機体は川崎重工業製で、乗員数は７人、巡航速度は時速 246 ㎞。県内は全域から 30 分以内で熊本市内の病院に搬送できる

昨年1月に運用を始めたドクターヘリの年間出動実績が、予想を1・5倍上回る４００件となった。ドクターヘリは、熊本赤十字病院（熊本市東区長嶺南２丁目）を基地病院として運用をスタート。救急専用の医療機器を装備し、救急医療の専門医師と看護師が搭乗するヘリコプターで、救命救急センターに搬送するまでの間、患者に救命医療を実施できる装備を持つ。今回の運用では、既に10年にわたり防災ヘリとして実績を持つ県の防災消防ヘリ「ひばり」２機が相互に役割を補完すると共に、ヘリ救急搬送体制支援病院である熊本赤十字病院、国立病院機構熊本医療センター、済生会熊本病院、熊本大学医学部附属病院と連携した「熊本型」の救急搬送体制を構築し、救急医療の一層の充実を図っている。

▲ 11 年 12 月に完成したヘリポート。最上階の５階に運航管理室がある